

関連項目：教育活動プラン⑤

折りよとどけ！テトラパックで集めた点数&折り鶴を被災地へ

目的

東日本大震災により、東日本に甚大な被害が出ました。そこで、児童会が中心になって話し合い、折り鶴や手紙を送ったり、テトラパック回収で集めたベルマーク点数を贈呈したりするという取り組みを継続することにより、児童の人のために力になりたいという意識を高めることにしました。

内容

● 全校生で折った折り鶴

児童会では、3月に被災地支援のための募金活動を行いました。その半年後の9月に、被災した小学校宛に全校生で折り鶴を折ることになりました。1・2年生には5・6年生が折り方を教えながら、一緒に折りました。復興への思いを込めて一羽一羽丁寧に折りました。鶴は全部で約1,300羽になり、折り鶴は千羽鶴にまとめて、宮城県石巻市立船越小学校に送りました。子どもたちが一羽一羽に込めた思いが伝わり、しばらくして船越小学校の友だちからお礼の手紙が届きました。



折り鶴の折り方を教える6年生

● 毎日のテトラパック回収

毎日牛乳パックを切って、開いて、洗って、乾かして回収し、集まったベルマークの点数を被災地の小学校に送っています。現在送った点数は約2万点です。一つ一つをていねいに切り開いて乾かすのは大変ですが、少しでも船越小学校の力になればという強い思いをもって、全校生で取り組んでいます。



テトラパックを並べて乾かす児童

● 心を込めて書いた寒中見舞い

1月中旬、全校生で寒中見舞いを送りました。以前船越小学校からいただいた手紙から船越小学校の児童名も分かっているため、同じ学年の友だちあてに一人一人がメッセージを送りました。メッセージの中には「寒いと思いますが、風邪を引かないでください。」や「遠くから応援しています。」「またいつか会えたらうれしいです。」などの言葉が多く見られ、交流の深まりを感じることができました。

成果

船越小学校と手紙や写真でのやりとりを繰り返すうち、個人あての手紙を送ることができるようになりました。互いに相手の顔が見える交流になっているという実感があり、子どもたちもうれしそうでした。「自分たちの活動が少しでも被災地の学校の力になれば」そんな思いで全校生が一つになって取り組んできました。この活動は、今後も児童会を中心に継続していきます。これからも、直島小学校の子ども一人一人が船越小学校の子ども一人一人とつながっていると実感できる機会をもつとともに、校内においても互いの良さを認め合い、共に伸び合っていけるよう道徳及び特別活動等との関連を図りながら活動を深めていきたいと思います。